



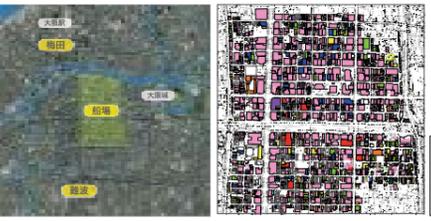
# 「職 × 食 × 住」

~Edible Succession in 船場~

## 1. SITE

### ■大阪市中央区船場

大阪市中央区に位置する船場（せんば）は大阪の都心部をなす地域である。かつては大阪の中心地として、繊維問屋・商社・証券会社・銀行が集中して栄えていたが、現在では流通構造の変化による問屋業態の衰退が顕著で、企業の東京や海外流出が問題視されており、かつての活気が失われている。



## 2. PROBLEM

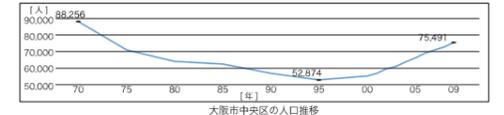
### ■船場の余床空間



船場の郊外移転の実態を探るため、地上 15m付近にあたる5階層の利用状況調査を行った。調査より、船場には中小ビル上層部（5、6階付近）に空きオフィスや使われていない屋上空間など、面的に広がる多くの余床空間が存在することが明らかになった。

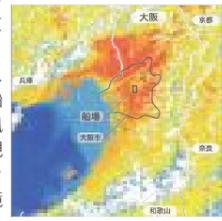
### ■都心居住人口の変遷

高度経済成長と共に大阪の都心である中央区は地価が高騰し、居住人口は郊外へ流出した。しかし、1995年頃よりオフィスビル跡地のマンション開発が始まり、減り続けていた都心居住人口が増加し始め、約 15 年間で人口が 1.5 倍に増加した。しかし、オフィスと住居は完全に独立しており、かつてのような職住混在の良い風景が形成されていない。



### ■日本一暑い街 大阪

大阪市域では、ヒートアイランド現象と地球温暖化によって、この100年間で気温が2℃上昇している。コンクリートの建物群とアスファルトの道路に覆われた船場では、太陽光の照返し、風通し不良など、体感的には観測気温以上に暑い。街を行き交う人々にとって快適な環境とは言えない。



### ■屋上緑化の浮孤島

都市の屋上緑化は孤立しており、浮き島のように点在している。都市に緑を創出する際に、平面的にも立体的にも連続性が保たれるように計画することで、都市の空中に回遊性が生まれる。一つのビルで完結していた動線が水平に広がる。緑地間の移動が保障されている事は生物にとっても重要であり、緑の生態回廊が必要である。

